

子どもの「誤答」は授業改善へのメッセージ

—効果的な「誤答分析に基づく授業改善」に向けて—

「誤答分析」パターンの一例

学力調査ごとに、国や県から平均正答率などの統計データが提供されます。各学校では、これらの客観的な統計データで集団全体の傾向をつかみながら、目の前の一人ひとりの児童生徒の姿に、丁寧に寄り添うことが必要です。そのために推進するのが「誤答分析」に基づく授業改善です。その方法の一例をお示しします。



調査実施

全校体制で採点しながら、児童生徒の解答を類型化して分析を進めている実践が報告されています。

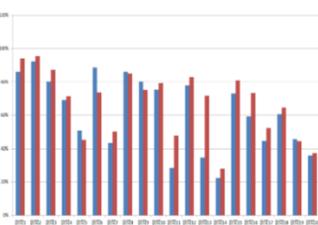
自校採点→分析支援ツールへ入力

設問別正答率

観点別正答率

度数（正答数）分布

の3つのデータが示されます。



これらのデータの、「どの設問、どの観点で正答率が低いか」に着目し分析の対象設問及び観点を絞り込みます。

対象設問の児童生徒の解答を類型化

正答

準正答

多くの児童生徒に見られる誤答

特定の児童生徒に見られる誤答

解答のよさを分析し、価値付けることで、次につながるヒントを見つけます。

個別指導で支援

学級の傾向か、学年全体の傾向か、学校全体で継続した課題であるかを検討します。

例) 複数の資料があるにも関わらず、一つの資料の内容にしか触れていない解答が多い。

日常の授業の振り返り

児童生徒一人ひとりのつまずきの背景について分析します。

個別指導で支援

児童生徒の実態は？

授業での児童生徒の発言や記述、話合いの様子などを振り返り、このような誤答をしてしまう傾向はないか、検証しましょう。

例) 「普段の授業でも、直前の友達の意見を踏まえた発言はできるが、複数の意見を踏まえた発言はできないなあ…」

授業での指導は？

授業での教職員の指導を振り返り、このような誤答を導いてしまう要因はないか、検証しましょう

例) 「普段の授業でも、資料の読み取りには取り組んでいるが、複数の資料を関連付けて読み取る活動が十分ではなかったなあ…」

自分の授業で、自分の教科で

授業での指導に反映

みんなの授業で、全ての教科で

例) 出てきた意見を分類して板書し、児童生徒に示す。

例) 複数の資料を準備し、比較させたり、関連付けさせたりする。

例) 授業終末のまとめで、資料から読み取った内容と、自分の意見を踏まえた記述をさせる。

効果的な「誤答分析に基づく授業改善」による児童生徒の資質・能力の向上